可茂農林事務所では、
『ため池の生きもの調査と外来種駆除活動』を実施します。

可茂農林事務所では、平成２１年度から『ため池の生きもの調査と外来種駆除活動』を実施しています。今年度（H22）は、管内の８箇所のため池で実施する予定です。

（昨年度の結果「ため池の生きもの調査と外来種駆除活動（Ｈ２１）実施結果」参照）

この活動を行う目的や、実施予定箇所については、次のとおりです。

（活動の目的）

ため池は、昔から農業用水を確保するため水を貯え供給する重要なかんがい施設として、日本の農業の発展を支えてきただけでなく、多種多様な生きものが生息する貴重な水辺空間でもあり、豊かな自然を育む生きものとの”ふれあいの場”として、また”憩いの場”として守られてきました。

しかし、近年になって意図的（もしくは非意図的）に持ち込まれた外来種の中には、その地域の生態系の微妙なバランスを崩し、非常に大きな悪影響を及ぼすものがいます。

そこで岐阜県（可茂農林事務所）では、地域住民がため池に対して関心を持ち理解を深めていただくと共に、長年培ってきたため池の生態系（生物多様性）を将来にわたり保全していただくことを目的として、地元住民（地元活動組織）と協働して、『ため池の生きもの調査と外来種駆除活動』を実施します。

（実施予定箇所と実施予定日）

・栃洞ため池（可児市久々利）　H22 年 10 月 17 日実施

・撫尾ため池（可児郡御嵩町中）　H22 年 10 月 21 日実施

・撫尾新ため池（可児郡御嵩町中）　H22 年 10 月 28 日実施

・桜ため池（可児市大森）　H22 年 10 月 31 日実施予定

・大原ため池（美濃加茂市加茂野町）　H22 年 11 月 7 日実施予定

・比衣防災ため池（可児郡御嵩町比衣）　H22 年 11 月 15 日実施予定

・柿之木洞池（美濃加茂市蜂屋町）　H22 年 11 月 26 日実施予定

・第一大池（美濃加茂市加茂野町）　H22 年 12 月 10 日実施予定

～　ため池の生きもの調査と外来種駆除活動に関するＱ＆Ａ　～

Ｑ１：そもその「ため池」って何？

Ａ１：ため池は、降雨量が少なく、流域の大きな河川に恵まれない地域などで、農業用水を確保するために水を貯え取水できるよう、人工的に造成された池のことです。ため池は、水田開発や用水不足解消を目的に、古くは西暦７００年頃まで遡ると言われており、昔から農業用水の貴重な水源として築造・利用されてきました。

Ｑ２：ため池の生物多様性って？

Ａ２：ため池は、一般的に浅く小さいため、水草が生えやすい環境にあります。また、農業用水を確保するため水を貯える機能を維持していく必要があるため、定期的に池の水を抜き（池干し）、池底に溜まった土砂を取り除いたり、堤体を補修したりと、人の手によって、適正に管理されてきました。そのため、ため池の中には目に見えないくらい小さいプランクトンやアメンボ、ゲンゴロウ、ヤゴ（トンボの幼虫）、エビ類（スジエビやヌマエビ）、ヨシノボリ類、フナやモロコなどたくさんいます。カメやカエルは池の岸辺を行き来し、鳥の仲間には池でエサをとり、岸辺の林に巣を作るものもおり、ため池は生きものの宝庫です。

Ｑ３：池干し（池の掃除）って、その池の生態系を破壊しないの？

Ａ３：Ａ２でも述べたとおり、ため池は定期的に池干しを行うなど、人の手によって適切に維持管理されてきたという歴史があり、ため池の生物多様性もこのような管理された池の中で育まれたと考えられます。今回の活動では、池干しが行われるため池に対して、水生生物を中心とした生きもの調査を行うものであり、調査の結果、捕獲した外来種（特定外来生物：オオクチバス等）を駆除する活動です。また、少しでも生態系への影響を減らすため、捕獲された在来種（昔からその地域に生息していた生き物）については、その下流水域に放流したり、一時、近くのため池などに避難させ、調査した池がふたたび湛水してきたら、ふたたび避難させた生き物を戻す作業を行う事も考えています。

Ｑ４：なぜ外来種を駆除する必要があるの？

Ａ４：外来種の中には、その地域にもともと住んでいた生き物（生態系）の微妙なバラン

スを崩し、非常に大きな悪影響を及ぼすものがいます。ため池についても、特定外来生物に指定されているブルーギルやオオクチバスなどが密放流されると、ため池特有の小規模で閉鎖的な環境ゆえに短期間のうちに、従来の生態系が壊滅的な打撃を受けてしまうことが判ってきています。そのため、ため池本来の生態系（生物多様性）を守るため、今回、捕獲された特定外来生物を駆除します。

（詳しくは、環境省のホームページ「外来生物法」で検索して下さい。）

昨年度（Ｈ２１）のため池の生きもの調査と

外来種駆除活動（生きもの学習会）の写真